

平成26年度 子ども大学はにゅう 学習の記録

～ 子ども大学はにゅう学習の記録 ～

1日目：9月6日（土曜日）

2日目：10月18日（土曜日）

3日目：11月15日（土曜日）

4日目：12月20日（土曜日）

1日目：2014年9月6日（土曜日） 埼玉純真短期大学

時間	内容	講師	会場
午前9:00~9:30	入学式		埼玉純真短期大学
午前9:45~10:30	できるかな？ 頭を使って体を動かそう	浦谷 郁子先生 (埼玉純真短期大学 非常勤講師)	
午前10:45~11:30	こころって不思議！ チャレンジ・コラージュ	稲垣 馨先生 (埼玉純真短期大学 准教授)	

○入学式

第4期の「こども大学はにゅう」は4年生11名、5年生10名、6年生3名、計24名でスタートしました。本年度の入学式は昨年と違って大教室ではなく、マナー実践室で開かれます。

マナー実践室は他の教室の雰囲気と異なり、重厚で趣ある教室です。純真短期大学の学生たちには「マリー・アントワネットの部屋」などとも呼ばれており、高級レストランのような家具や装飾が人気となっています。

昨年、一昨年に続いて参加下さった子どもさんもおれば、初めての参加に緊張気味の子どもさんもおりましたが、それぞれが真剣な面持ちで入学式に臨みます。



○開式のことば

埼玉純真短期大学 伊藤道雄教授のことばで入学式が始まりました。司会は、埼玉純真短期大学1年生の学生さん達です。



○あいさつ

藤田利久学長（埼玉純真短期大学学長）、小島敏之副学長（羽生市教育委員会教育長）から新入生に向けて、激励のお言葉をいただきます。学長、副学長からの言葉で、「頑張ろう！」という気持ちが一層強くなりましたね。



○記念品贈呈、学生代表のこぼ

「こども大学はにゅう」への入学を記念して、記念品の贈呈が行われます。記念品として、学習ファイル、手提げバッグ、クリアファイル、鉛筆、メモ帳が学生の皆さんへ贈呈されます。存分に使用して下さいね。

学生代表の小牧百々子（こまき ももこ）さんが、藤田学長から記念品を受け取りました。また、小牧さんは、学生を代表して、「こども大学はにゅう」への抱負を立派に語ってくれました。



○グループの役割決め

入学式終了後は、グループで役割を決めました。第4期「こども大学はにゅう」では、初めてのグループ活動です。グループ内には、同じ小学校の子以外の小学生もいるので、緊張しますね。それでも、羽生市青少年相談員の皆さんにお手伝いいただきながら、時間内にリーダー、副リーダー、感想係、発表係を決めることができました。



○1 限目：「できるかな？ 頭をつかって体を動かそう」

入学式、そしてグループ決めが終わると、さっそく1限目の授業です。今年度最初の授業は、埼玉純真短期大学 非常勤講師の浦谷先生による「できるかな？頭をつかって体を動かそう」という授業で「コーディネーショントレーニング」と呼ばれる運動を取り入れたものでした。

聞き慣れない「コーディネーショントレーニング」という言葉に、子どもたちも「何をやるんだろう？」と疑問符でいっぱいでしたが、その前に、まずは準備体操。



実際に「コーディネーショントレーニング」をやってみよう！ということで、まずは下半身ではグー、チョキ、パーの動作で3拍子を刻み、上半身では腕を上下させて2拍子を刻むトレーニングを行いました。

大学生のお姉さんたちも一緒にやってくれました。



「あんたがたどこさ」にもチャレンジしました。「右、左、右、前、後に跳ぶんだよ」と子どもたち同士でレクチャーする姿も。歌が長く、ずっと集中していないといけないので、意外と難しいです。

最後は皆で記念撮影。頭と体をいっばいつかったので、皆スッキリした表情です。



○2 限目：「こころって不思議！ チャレンジ・コラージュ」

2 限目は、埼玉純真短期大学 稲垣先生による「こころって不思議！チャレンジ・コラージュ」です。自分たちの持ってきた古雑誌やいらない本のなかから、好きな写真や模様だけをはさみで切りだして、画用紙に張り付けていきます。「どんな作品にしようかな?」、「なんの写真使おう?」と考えながらスタートしました。



メイン写真を選んだら、写真を切って画用紙に貼っていきます。どのようなコラージュにしようか構成を考えながらの作業です。作っているうちに、どんどんイメージやアイデアが湧いてきたようですね。



夢中になって作っていたら、あっという間に時間になってしまいました。集中すると時間は早く過ぎてしまいますね。

最後は出来上がった作品と一緒に、「ハイ・チーズ！」



2日目：2014年10月18日（土曜日） 埼玉純真短期大学

時間	内容	講師	会場
午前9:00~9:40	角帽を作ろう	羽生市青少年相談員の皆さん	埼玉純真短期大学
午前9:50~11:30	知ってるかい？ 森のヒミツ・木のヒミツ	埼玉県森づくり課の皆さん	

本日、こども大学はにゅうの2日目が行われました。

本日は、羽生市青少年相談員による「角帽を作ろう」と埼玉県森づくり課による「森のヒミツ・木のヒミツ」の授業が開かれます。

来校時から「こども大学」の子どもさんたちは元気な姿を見せてくれました。



〇1 限目：「角帽を作ろう」

1限目の「角帽を作ろう」では、卒業式で使用する角帽を、画用紙などの材料を使って自分たちの手で作りました。初めて角帽づくりを体験する子どもさんもいれば、昨年の経験を生かし、テキパキと作業を進める子どもさんもありました。



自分の頭の大きさを測ったり、のりやボンドを使ってパーツを組み合わせて角帽を作り上げていきます。楽しく作り、全員無事に時間内に作り終えることができました。皆さん上手に出来上がりましたね。



○2 限目 : 「森のヒミツ・木のヒミツ」

2限目の「森のヒミツ・木のヒミツ」では、埼玉県森づくり課の方々による、森・木の講座、そして実際に木に触れ、制作する木工体験が開かれました。

まずは、森づくり課の先生による授業です。「地球の表面積の内、森林は何パーセントでしょうか?」、「埼玉県の土地で森林は何パーセントあるのでしょうか?」など私たちが知らない森・木の情報をたくさん教えていただきました。「木は実は燃えにくい?」、「日本は森林が多い国?」などなど、知らないことばかりでしたね。



お話を聞いた後は、木工体験をしました。木のいろいろな形や、模様、香りを楽しみながら、思い思いの制作物を作成していました。ノコギリを使って木を切る子どもさんたちは、ぎこちなさが残るものの、力強く感じられました。自分のイメージを固めて、その形に切っていくのはなかなか難しいですね。



何気なく立っている木も、私たちにとって欠かすことのできない資源であるだけでなく、私たちが生きていく上で必要不可欠な要素であることを改めて教えて下さった授業でした。

こども大学2日目が行われた当日は、同時に本学の純真祭（学園祭）が行われていました。こども大学の子どもたちには、500円分のチケットが配られ、それを使って子どもたちは存分に純真祭を楽しんでくれたようです。お菓子を買ったり、ゲームをしたりととても楽しそうでした。

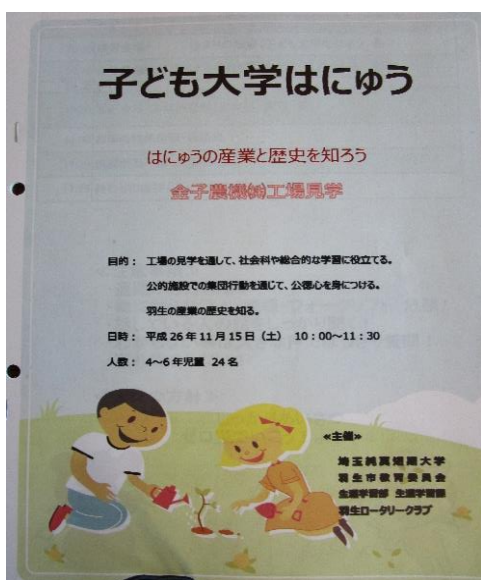
3日目：2014年11月15日（土曜日） 金子農機株式会社

羽生ロータリークラブ寄付講座「ふるさと羽生学」

時間	内容	講師	会場
午前10:00～11:30	はにゅうの歴史と産業を 知ろう	金子 重雄先生 (金子農機株式会社 専務取締役)	金子農機株式会社

子ども大学はにゅう3日目が、金子農機株式会社本社を会場として開催されました。今年から、子ども大学はにゅうの運営に、「羽生ロータリークラブ」の皆さんが参加していただくことになり、市内の文化・産業のトップ企業による「ふるさと羽生学」を、「羽生ロータリークラブ寄付講座」として、開講することになりました。

本日は、穀物の乾燥機をはじめとする農業機械の生産では、日本で有数で、広く世界に羽ばたいている「金子農機株式会社」を訪問しての「はにゅうの産業と歴史を知ろう」の講義と工場見学でした。



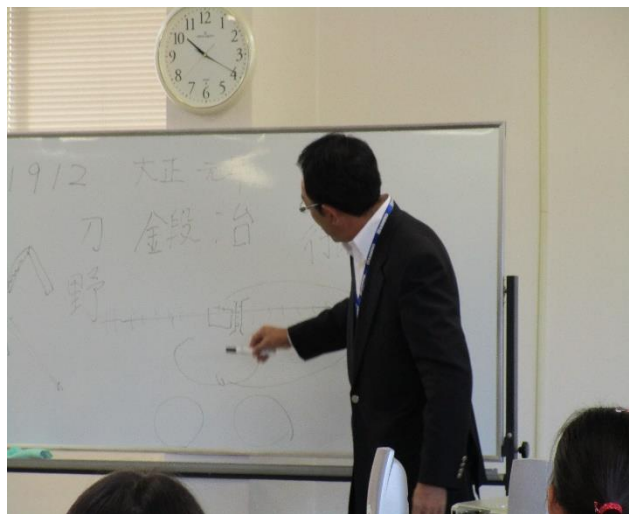
〇1 限目：「はにゅうの歴史と産業を知ろう」

まず、金子専務さんから、金子農機の歴史についてお話がありました。

金子農機は創業以来102年の歴史があることや、野鍛冶から始まり、お米や麦などの乾燥機を開発して、この分野での日本のトップ企業になったこと。今では、中国やベトナムをはじめとする東南アジアでも、金子農機の遠赤外線乾燥機「一心号」が活躍しているお話を聞きました。



続いて、DVD の映像を見ながら、昭和 3 8 年まで、羽生駅には東口しかなく、駅西側の人たちは、遠くの踏切を渡らないと東側に行けなかったことや、金子専務さんのおばあさん（りくさん）のご遺志により、羽生駅の東西を結ぶ「りく橋」が、金子農機がお金を出して作られたことなど、羽生駅西側の歴史についてもお話がありました。



会社の歴史の講義の後は、工場見学です。

この日は土曜日で会社はお休みなので、工場は稼働していませんでしたが、大きな鉄板を曲げるベンダーや、寸法を出して穴をあけるプレス、それにスポット溶接をするロボット溶接機や粉体塗装の設備を見学し、子どもたちは大きな設備や、完成した立派な農業機械にビックリです。





最後にサプライズ。金子農機の農場でとれたお米（玄米）を、精米機にかけて精白する実演がありました。茶色で匂いのある玄米が、精米機にかけると、あっという間に真っ白なお米に変身です。子どもたちはこのきれいなお米を袋にいっぱい詰めて、家族へのお土産に持ち帰ることが出来ました。



こども大学はにゅうの学生にとって、羽生の歴史の一端を知る貴重な一日となりました。

ご協力いただいた金子農機の皆さん、ありがとうございました。

4日目：2014年12月20日（土曜日） 埼玉純真短期大学

時間	内容	講師	会場
午前9:00～10:00	みんなで作ろう子ども 大学はにゅうの歌 2014	小澤 和恵先生 (埼玉純真短期大学 教授)	埼玉純真短期大学
午前10:10～10:40	学習のまとめ	牛込 彰彦先生 (埼玉純真短期大学 教授)	
午前10:50～11:50	修了式		

平成26年度の「子ども大学はにゅう」が、4日目！ 最終日を迎えました。12月にもなり、冷え込んだ朝だったので、風邪予防のためにマスクをしている子どもも目立ちましたが、寒い中でも子どもたちは元気に登校してきてくれました。

子どもたちは本年度の「子ども大学はにゅう」を通し、少しでも学ぶことができたでしょうか。今回を機に、残念ながら6年生の子どもたちは本当に修了となってしまいます。名残惜しい気持ちもありますが、これからもっともっと成長し、中学、高校、大学で多くのことを学び、自身の夢を叶えてもらいたいものです。



01 限目：「みんなで作ろう子ども大学はにゅうの歌2014」

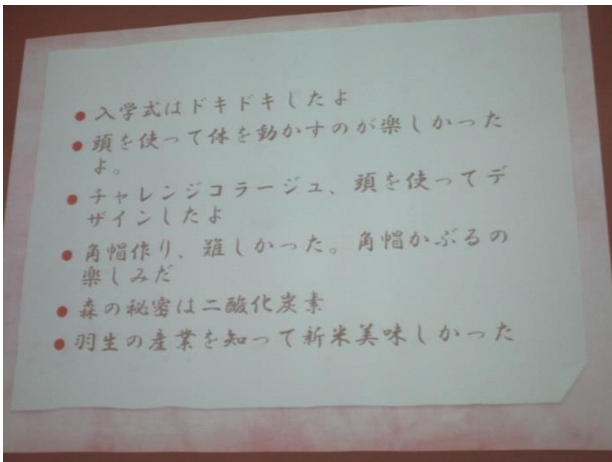
埼玉純真短期大学教授 小澤和恵先生の授業です。小澤和恵先生の授業は、これまでの3日間の学習を振り返り、その中で感じたことを言葉にし、詞をつくり、曲をつけ歌にする活動です。これまでの活動から、授業のテーマをヒントに歌詞となる言葉を拾い出しました。

- ・入学式
- ・できるかな？頭をつかって体を動かそう
- ・こころって不思議！チャレンジコラージュ・角帽を作ろう
- ・知ってるかい？森のひみつ・木のひみつ
- ・はにゅうの歴史と産業を知ろう
- ・歌をつくろう
- ・修了式

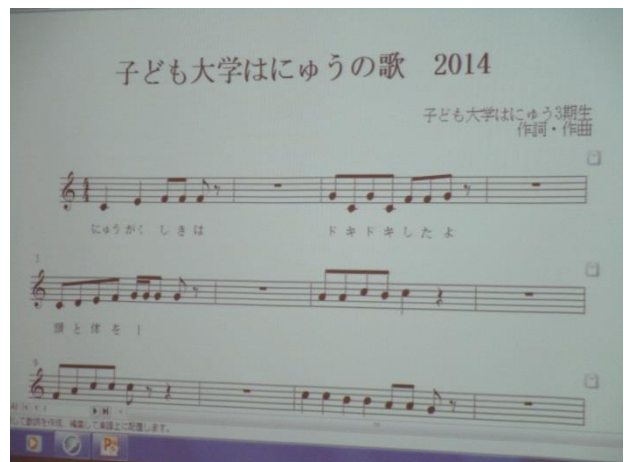




子ども達を3つのグループに分け、今までの活動を分担し、みんなで話し合い、詞や曲をつくりました。途中からピアノのある教室に移動し、ピアノで音を拾いながら曲も作りしました。わずか1時間の時間で曲が完成しました。子ども達の感性は素晴らしいものがあります。

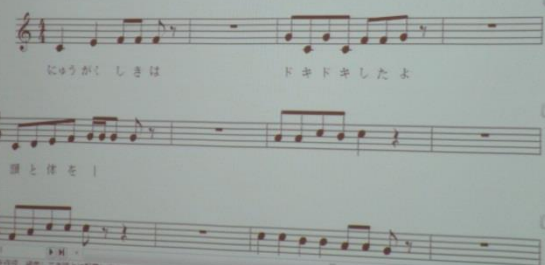


- 入学式はドキドキしたよ
- 頭を使って体を動かすのが楽しかったよ。
- チャレンジコラージュ、頭を使ってデザインしたよ
- 角帽作り、難しかった。角帽かぶるの楽しみだ
- 森の秘密は二酸化炭素
- 羽生の産業を知って新米美味しかった



子ども大学はにゅうの歌 2014

子ども大学はにゅう3期生
作詞・作曲



○2 限目：「学習のまとめ」

● 「学習のまとめ」

埼玉純真短期大学教授 牛込彰彦先生からこれまでの学習をまとめ、発表するための準備の時間をいただきました。A3版の用紙に4日間の感想を記入し、発表できるようにイラストにしたり工夫し作成しました。一人一人の素敵なオリジナルの用紙が完成しました。



○「学習のまとめ」発表

修了式の前に4日間の学習の成果を発表しました。どの子ども達も充実した4日間様子がわかる内容でした。



○「修了式」

池沢副実行委員長の開会のことばで修了式が始まりました。子ども達一人一人は修了証書を手にし、堂々としていました。

藤田利久子ども大学学長が、修了式には出席できなかったので、学習のまとめの前に事前にあいさつされた言葉を思い出し、子ども達は修了証書をもらった意味を深めました。

続いて、3年間連続して参加した大橋美月さんに学長賞の記念品が授与されました。

「沢山勉強して羽生のことも沢山知った！」という大橋さんの学生代表のことばがありました。



修了式後に、先ほど作った「みんなでつくろう子ども大学はにゅうの歌2014」の歌が披露されました。小澤先生が歌いやすいように少しだけアレンジを加えて下さり、世界で一つだけのオリジナル曲でみんなの心が繋がりました。

この日のこの曲は DVD に録音され、一人一人に配布される予定です。

「みんなでつくろう子ども大学はにゅうの歌2014」

にゅうがくしきは	にゅうがくしきは	ドキドキしたよ	ドキドキしたよ
頭と体をうごかして	頭と体をうごかして	たのしかった	たのしかった
チャレンジコラージュ	チャレンジコラージュ	デザインしたよ	デザインしたよ
かくぼうづくりは	かくぼうづくりは	むずかしかった	むずかしかった
かくぼうかぶるの	かくぼうかぶるの	たのしみだ	たのしみだ
もりのひみつは	もりのひみつは	にさんかたんそ	にさんかたんそ
はにゅうの産業して	はにゅうの産業して	しんまいだ	しんまいだ
おいしかった	おいしかった		

その後、グループごとに記念写真の撮影となりました。
角帽をかぶり、一足早い大学生の姿にどの子も大満足でした。

